資料編－３　排出抑制量

本圏域では、排出抑制・再資源化を促進するため、各種方策の達成及び促進を目標としており、これらの方策を１つでも多く達成及び促進することで、より多くのごみの減量化が図れるものとしています。なお、本圏域の減量化の目標値は国及び鹿児島県の目標値を基に設定することとし、国が示す「第４次循環型社会形成推進基本法」及び鹿児島県が示す「鹿児島県廃棄物処理計画」はともに目標年度が令和７年であり、それぞれ、ごみ排出原単位は850g/人･日、875g/人･日となっています。

よって、本圏域の排出抑制目標は国及び鹿児島県の目標値を参考として以下のように目標値を設定します。

◆図表 3-1　本圏域の排出抑制目標

計画目標年度	令和３年度	令和７年度	令和９年度
ごみ排出原単位	921.0 g/人･日	875 g/人･日	850 g/人･日
R3 からの減少率	―	約 5.0％	約 7.7％
備考	本圏域実績値	鹿児島県の R7 目標値	国の R7 目標値

なお、上述したように、目標達成に向けては令和３年度実績値から 5.0～7.7％削減する必要があります。また、令和元年度からはコロナ禍により生活環境も大きく変わり、それにより各種ごみ排出量についても変化がありました。しかしながら、コロナ禍による影響も収束しつつあることが考えられ、その変化を考慮するために令和４年度（4～1 月）実績値と令和３年度の同期間のごみ排出量の変化を考慮した上で、各町の各種ごみ排出原単位の目標値を定めることとします。

１　和泊町の減量化目標

本圏域のごみ排出原単位の目標値（R7：875 g/人･日、R9：850 g/人･日）を基に設定した和泊町の各種ごみの減量化目標値を以下に示します。

なお、目標値の設定に際しては上述したように、コロナ禍による影響を考慮した上で設定するため、令和３年度（4～1 月）実績値から令和４年度（4～1 月）実績値の増減によって令和９年度目標値設定の際の参考にすることとします。なお、一例を以下に示します。

目標値設定及び令和４年度実績からの予測値の考え方

①令和４年度実績からの予測値の設定

排出抑制量の目標値設定の際に用いる考え方については過去の実績及び推計値を基に設定しますが、コロナ禍による影響も考慮したいため、令和３年度実績値（４～１月）及び令和４年度実績値（4～1 月）を基に令和９年度におけるごみ排出量を予測します。（以下、「令和４年度からの予測値」といいます。）

下表に示すように、燃えるごみ（収集ごみ）は令和 4 年度（4～1 月）実績において、令和 3 年度（4～1 月）実績から-1.8t/年（-0.2%）となっています。

表 1　令和 3 及び 4 年度の実績（4～1 月）

項目	【令和 3 年度】 実績（4～1 月）	増減数 （増減率）	【令和 4 年度】 実績（4～1 月）
例）収集ごみ 燃えるごみ	939.0 t/年	-1.8 t/年 (-0.2%)	937.2 t/年

令和 5 年度以降も令和 4 年度（4～1 月）実績と同様な推移になると考えると、ごみ排出原単位は以下（R3 実績 492.4g/人･日×0.2%＝0.98 g/人･日×6（R4～9 の 6 年間）≒5.9 g/人･日）のようになります。

表 2　令和 4 年度からの予測値

項目	【令和 3 年度】 実績	増減率 （6 年後）	【令和 9 年度】 R4 からの予測値
例）収集ごみ 燃えるごみ	492.4 g/人･日	-0.2%/年 (-1.2%)	486.5 g/人･日

①令和 9 年度に向けた削減率の目安

令和 9 年度における削減率の目標値として、コロナ禍による影響も考慮し、令和 3 年度実績値（4 ～ 1 月）から令和 4 年度実績値（4～1 月）の増減によって、令和 9 年度における削減目標を設定します。（以下、この増減によって設定する削減目標を「令和 3 年度からの削減目標」といます。）

仮に、令和 3 年度（4～1 月）実績値と比べ、令和 4 年度（4～1 月）実績値が増加している場合は、令和 3 年度のごみ排出原単位実績から 5%削減した数値を令和 9 年度の削減目標の目安とし、令和 3 年度（4～1 月）実績値と比べ、令和 4 年度（4～1 月）実績値が増加している場合は、令和 3 年度のごみ排出原単位実績から 10%削減した数値を令和 9 年度の目標の目安とします。ここで、目標の目安としているのは、過去の実績、推計値及び令和 4 年度からの予測値等と比較した上で、令和 9 年度の目標値を設定するためです。

以下に、燃えるごみ（収集ごみ）を例にした令和 3 年度からの削減目標の設定方法を示します。表 1 にて、燃えるごみの令和 4 年度（4～1 月）実績値は令和 3 年度（4～1 月）実績値から減少していますので、令和 9 年度における目標削減率は 10%となり、令和 3 年度からの削減目標は 440g/人･日となります。

表 3　令和 3 年度からの削減目標

項目	【令和 3 年度】 実績	R3-R4 の増減 （増減率）	【令和 9 年度】 目標削減率	【令和 9 年度】 R3 からの削減目標
例）収集ごみ 燃えるごみ	492.4 g/人･日	-1.8 t/年 (-0.2%)	10%	440 g/人･日

（1）収集ごみ

和泊町の本計画目標年度（令和 9 年度）における排出抑制後の収集ごみ排出原単位は以下に示すとおりとなります。

【収集ごみ】	【推計値】 R9		【減量化】 R9
燃えるごみ	510.6 g/人･日	→	470 g/人･日
燃えないごみ・空き缶・その他	25.7 g/人･日		23.3 g/人･日
空きビン	13.6 g/人･日		13.1 g/人･日
ペットボトル・発泡スチロール	9.8 g/人･日		8.3 g/人･日

ア　燃えるごみ

目標採用値：470g/人･日　⇐　実績値(R3)：492.4g/人･日
（-5%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 0.2%減少し、燃えるごみ（収集ごみ）搬入量は、推計と異なり今後は減少傾向にて推移するものとし、仮に 0.2%ずつ減少（R3 実績 492.4g/人･日×0.2%＝0.98g/人･日×6（R4～9 の 6 年間）＝5.88≒5.9 g/人･日）したとすると令和 9 年度では 486.5g/人･日になります。

これは、コロナ禍による在宅勤務や自宅時間の増加などの生活様式がコロナ禍前にもどりつつあることが考えられます。

また、燃えるごみの目標値の設定については図表 3-2～3 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 440g/人･日（10%削減）であり、これは推計値及び令和 4 年度からの予測値よりも高い目標設定となりますが、過去実績を考慮すると達成は困難であると考えられます。

次に、過去実績では過去 5 年間及び 10 年間実績の最小値（477.7g/人･日）を令和 9 年度の目標値とすると、令和 3 年度実績からの削減率は 3.0%となり、令和 9 年度の目標値はまだ高く設定が出来る余地があるとし、令和 3 年度実績から 5%減少した数値を目標値とします。

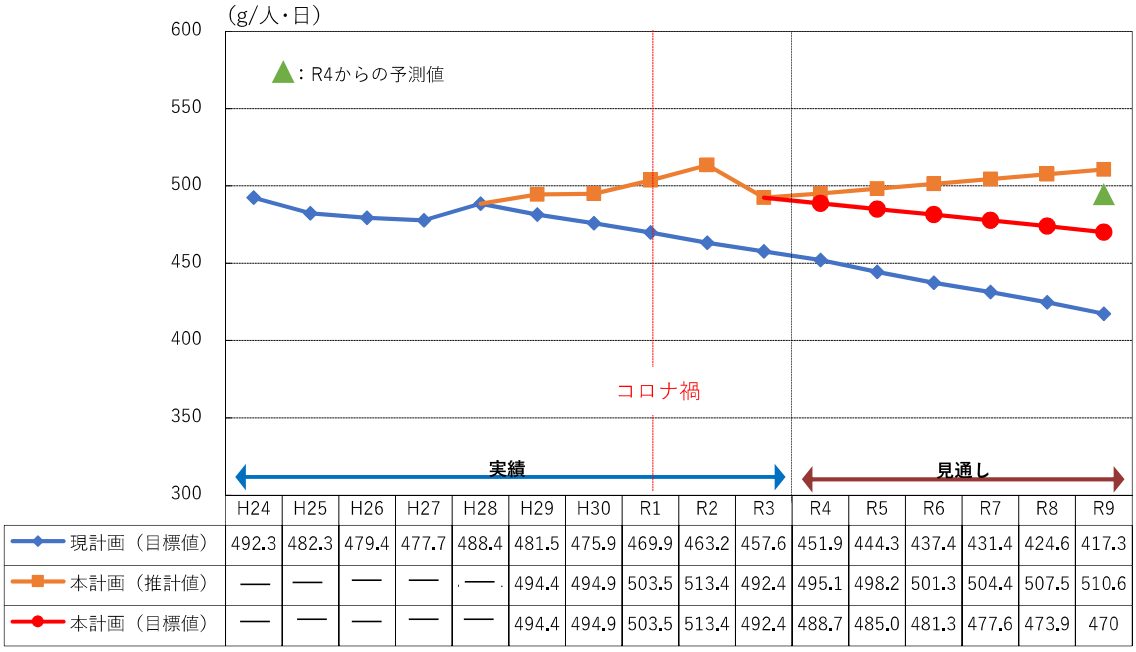
以上のことから、燃えるごみの令和 9 年度目標値は令和 3 年度実績値から 5%減少させた 470g/人･日に設定することとします。

なお、目標値（470g/人･日）を達成することで推計値（510.6g/人･日）から 8.0%の削減となります。

◆図表 3-2　燃えるごみの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4実績値（4～1月）	R9目標値		判定	備考
						R3からの増減率		
単位	g/人・日	t/年	増減(%)	t/年	g/人・日	%		
実績	492.4	939.0	-0.2	937.2	―	―	―	―
現行計画		―	―	―	417.3	-15.3	―	―
推計値		―	―	―	510.6	+3.7	×	R9目標値は推計値より高く設定
R4からの予測値		＝-0.2％×6年			486.5	-1.2	×	R9目標値はR4からの予測値より高く設定する
R3からの削減目標		―	―	―	440	-10	×	過去実績を考慮すると達成が困難
過去5年最小		―	―	―	492.4	0	×	過去10年実績値の方が小さい
過去10年最小		―	―	―	477.7	-3.0	×	減少率が低く、高い目標設定が可能
R3からの削減率		―	―	―	470	-5	○	
採用値		―	―	―	**470**	**-5**	―	

◆図表 3-3　燃えるごみの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	492.3	482.3	479.4	477.7	488.4	481.5	475.9	469.9	463.2	457.6	451.9	444.3	437.4	431.4	424.6	417.3
本計画（推計値）	―	―	―	―	―	494.4	494.9	503.5	513.4	492.4	495.1	498.2	501.3	504.4	507.5	510.6
本計画（目標値）	―	―	―	―	―	494.4	494.9	503.5	513.4	492.4	488.7	485.0	481.3	477.6	473.9	470

イ　燃えないごみ・空き缶・その他

目標採用値：23.3g/人・日　⇐　実績値(R3)：27.3g/人・日
（-14.7％）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 10.1％減少していることから、燃えないごみ・空き缶・その他（収集ごみ）搬入量は、推計と同様に今後も減少傾向にて推移するものとし、仮に 10.1％ずつ減少（R3 実績 27.3g/人・日×10.1％＝2.76g/人・日×6（R4～9 の 6 年間）≒16.6g/人・日）したとすると令和 9 年度では 10.7g/人・日となり、これは過去 10 年間の実績を考慮すると現実的ではないと考えられます。

燃えないごみ・空き缶・その他は平成 30～令和元年度に大きく増加し、その後は減少傾向となっていることから、コロナ禍による影響とは相関性は小さいものと考えられます。

また、燃えないごみ・空き缶・その他の目標値の設定については図表 3-4～5 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 24.6 g/人・日（10％削減）で、令和 4 年度からの予測値

は現実的ではありませんが、減少傾向にあることから令和 3 年度からの削減目標より高い目標が設定できると考えます。

次に、過去実績を比較すると、過去 5 年間実績最小値は 23.3g/人･日（H29）で、令和 3 年度からの削減目標よりも小さくなるため、令和 9 年度の目標値は過去 5 年間の最小値を採用することとします。

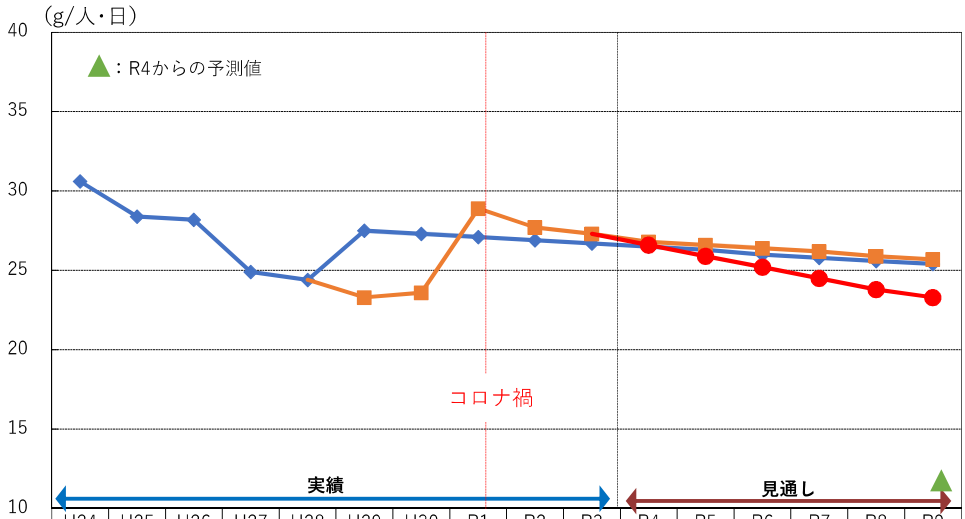
以上のことから、燃えないごみ・空き缶・その他の令和 9 年度目標値は過去 5 年間及び 10 年間実績のうち最小値である平成 29 年度（23.3g/人･日）と同値に設定することとします。

なお、目標値（23.3g/人･日）を達成することで推計値（25.7g/人･日）から 9.3％の削減となります。

◆図表 3-4　燃えないごみ・空き缶・その他の減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4実績値（4～1月）	R9目標値		判定	備考
						R3からの増減率		
単位	g/人･日	t/年	増減(%)	t/年	g/人･日	%		
実績	27.3	52.4	-10.1	47.1	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	25.4	-7.0	－	－
推計値		－	－	－	25.7	-5.9	×	R9目標値は推計値より高く設定
R4からの予測値		＝-10.1％×6年			10.7	-60.8	×	過去実績を考慮すると非現実的
R3からの削減目標		－	－	－	24.6	-10	×	R4からの予測値は減少傾向、過去5年実績値の方が低い
過去5年最小		－	－	－	23.3	-14.7	○	
過去10年最小		－	－	－	23.3	-14.7	○	
採用値		－	－	－	**23.3**	**-14.7**	－	

◆図表 3-5　燃えないごみ・空き缶・その他の減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	30.6	28.4	28.2	24.9	24.4	27.5	27.3	27.1	26.9	26.7	26.5	26.3	26.0	25.8	25.6	25.4
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	23.3	23.6	28.9	27.7	27.3	26.8	26.6	26.4	26.2	25.9	25.7
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	23.3	23.6	28.9	27.7	27.3	26.6	25.9	25.2	24.5	23.8	23.3

ウ　空きビン

目標採用値：13.1g/人･日　⇦　実績値(R3)：17.4g/人･日
（-25%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 9.1%減少していることから、空きビン（収集ごみ）搬入量は、今後も推計どおり減少傾向にて推移するものとし、仮に 9%ずつ減少（R3 実績 17.4g/人･日×9.1%＝1.58g/人･日×6（R4～9 の 6 年間）≒9.5g/人･日）したとすると令和 9 年度では 7.9g/人･日になり、過去 10 年間の実績を考慮すると現実的ではないと考えられます。

空きビンは平成 30～令和元年度に大きく増加し、その後は減少傾向となっていることから、コロナ禍による影響との相関性は小さいと考えられます。

また、空きビンの目標値の設定については図表 3-6～7 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 15.7g/人･日（10%削減）で、推計値（13.6g/人･日、R3 からの削減率：21.8%）の方が小さいため、令和 9 年度の目標値については、推計値よりも高い目標設定が可能であるとして、令和 3 年度実績から 25%減少した数値とします。

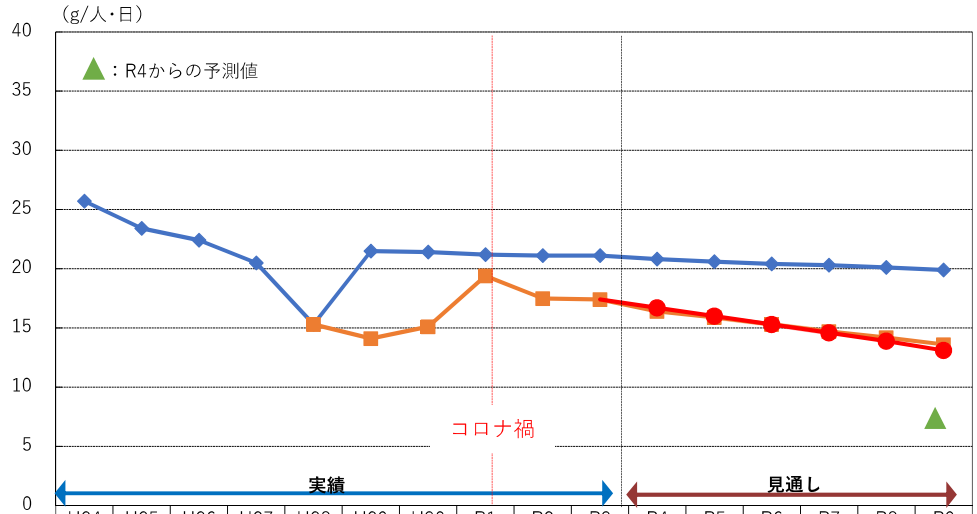
以上のことから、空きビンの令和 9 年度目標値は令和 3 年度実績値から 25%削減した 13.1g/人･日に設定することとします。

なお、目標値（13.1g/人･日）を達成することで推計値（13.6g/人･日）から 3.7%の削減となります。

◆図表 3-6　空きビンの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	(R4-R3)	R4実績値（4～1月）	R9目標値	R3からの増減率	判定	備考
単位	g/人･日	t/年	増減(%)	t/年	g/人･日	%		
実績	17.4	32.9	-9.1	29.9	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	19.9	+14.4	－	－
推計値		－	－	－	13.6	-21.8	×	R9目標値は推計値より高く設定
R4からの予測値		＝-9.1%×6年			7.9	-54.6	×	過去実績を考慮すると非現実的
R3からの削減目標		－	－	－	15.7	-10	×	推計値の方が小さい
過去5年最小		－	－	－	14.1	-19.0	×	推計値の方が小さい
過去10年最小		－	－	－	14.1	-19.0	×	推計値の方が小さい
R3からの削減率		－	－	－	13.1	-25	○	
採用値		－	－	－	**13.1**	**-25**	－	

◆図表 3-7　空きビンの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	25.7	23.4	22.4	20.5	15.3	21.5	21.4	21.2	21.1	21.1	20.8	20.6	20.4	20.3	20.1	19.9
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	14.1	15.1	19.4	17.5	17.4	16.4	15.9	15.3	14.7	14.2	13.6
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	14.1	15.1	19.4	17.5	17.4	16.7	16.0	15.3	14.6	13.9	13.1

エ　ペットボトル・発泡スチロール

目標採用値：8.3g/人・日　⇐　実績値(R3)：8.7g/人・日
（-5%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 41.7%増加していることから、ペットボトル・発泡スチロール（収集ごみ）搬入量は、推計と同様に今後も増加傾向にて推移するものとし、仮に 41.7%ずつ増加（R3 実績 8.7g/人・日×41.7%≒3.63 g/人・日×6（R4～9 の 6 年間）≒21.8 g/人・日）したとすると令和 9 年度では 30.5 g/人・日になります。

ペットボトル・発泡スチロールはコロナ禍により急増し、現状においてもまだその影響が続いていると考えられます。

また、ペットボトル・発泡スチロールの目標値の設定については図表 3-8～9 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 8.3g/人・日（5%削減）で、これは推計値及び令和 4 年度からの予測値よりも高い目標設定となっています。

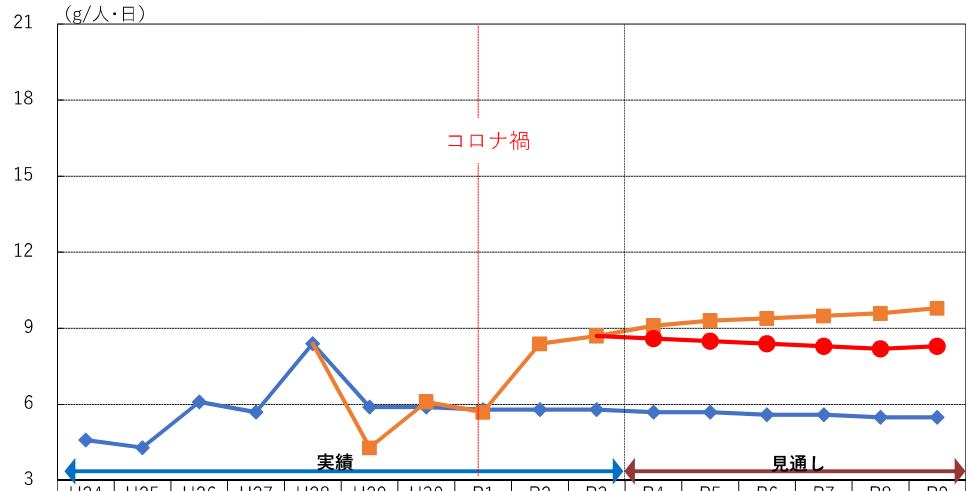
以上のことからペットボトル・発泡スチロールの令和 9 年度目標値は令和 3 年度実績値から 5%減少させた 8.3 g/人・日に設定することとします。

なお、目標値（8.3g/人・日）を達成することで推計値（9.8g/人・日）から 15.3%の削減となります。

◆図表 3-8　ペットボトル・発泡スチロールの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4実績値（4～1月）	R9目標値	R3からの増減率	判定	備考
単位	g/人･日	t/年	増減(%)	t/年	g/人･日	%		
実績	8.7	18.2	41.7	25.8	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	5.5	-36.8	－	－
推計値		－	－	－	9.8	+12.6	×	R9目標値は推計値より高く設定
R4からの予測値		＝+41.7%×6年			30.5	+250.6	×	増加しているため不採用
R3からの削減目標		－	－	－	8.3	-5	○	
過去5年最小		－	－	－	4.3	-50.6	－	推計値及びR4からの予測値が増加しており、過度な削減は困難
過去10年最小		－	－	－	4.3	-50.6	－	推計値及びR4からの予測値が増加しており、過度な削減は困難
採用値		－	－	－	**8.3**	**-5**	－	

◆図表 3-9　ペットボトル・発泡スチロールの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	4.6	4.3	6.1	5.7	8.4	5.9	5.9	5.8	5.8	5.8	5.7	5.7	5.6	5.6	5.5	5.5
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	4.3	6.1	5.7	8.4	8.7	9.1	9.3	9.4	9.5	9.6	9.8
本計画（減量化）	—	—	—	—	—	4.3	6.1	5.7	8.4	8.7	8.6	8.5	8.4	8.3	8.2	8.3

（2）直接搬入ごみ

和泊町の本計画目標年度（令和 9 年度）における排出抑制後の直接搬入ごみ排出原単位は以下に示すとおりとなります。

【直接搬入ごみ】	【推計値】R9	【減量化】R9
燃えるごみ	789.1 t/年	559.0 t/年
燃えないごみ・空き缶・その他	109.3 t/年	78.9 t/年
粗大ごみ	44.3 t/年	33.1 t/年
ペットボトル・発泡スチロール	5.4 t/年	4.4 t/年
ダンボール	32.6 t/年	32.2 t/年

ア　燃えるごみ

目標採用値：559.0t/年　⇦　実績値(R3)：709.2t/年
（-21.2%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 2.4%減少しており、燃えるごみ（直接搬入ごみ）搬入量は、推計と異なり今後は減少傾向にて推移するものとし、仮に 2.4%ずつ減少（R3 実績 709.2t/年×2.4%＝17.02 t/年×6（R4～9 の 6 年間）＝102.12≒102.1t/年）したとすると令和 9 年度では 607.1t/年となります。

これは、収集ごみ（の燃えるごみ）と同様に、コロナ禍による在宅勤務や自宅時間の増加などの生活様式がコロナ禍前にもどりつつあることが考えられます。

また、燃えるごみの目標値の設定については図表 3-10～11 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 640t/年（10%削減）で、令和 4 年度からの予測値の方が小さく、令和 9 年度の目標値はこれよりも高い設定が可能であると考えられます。

次に、過去実績では過去 5 年間及び 10 年間実績の最小値は 559.0t/年（H26）で、令和 4 年度からの予測値よりも小さいため、令和 9 年度目標値は過去実績の最小値を採用することとします。

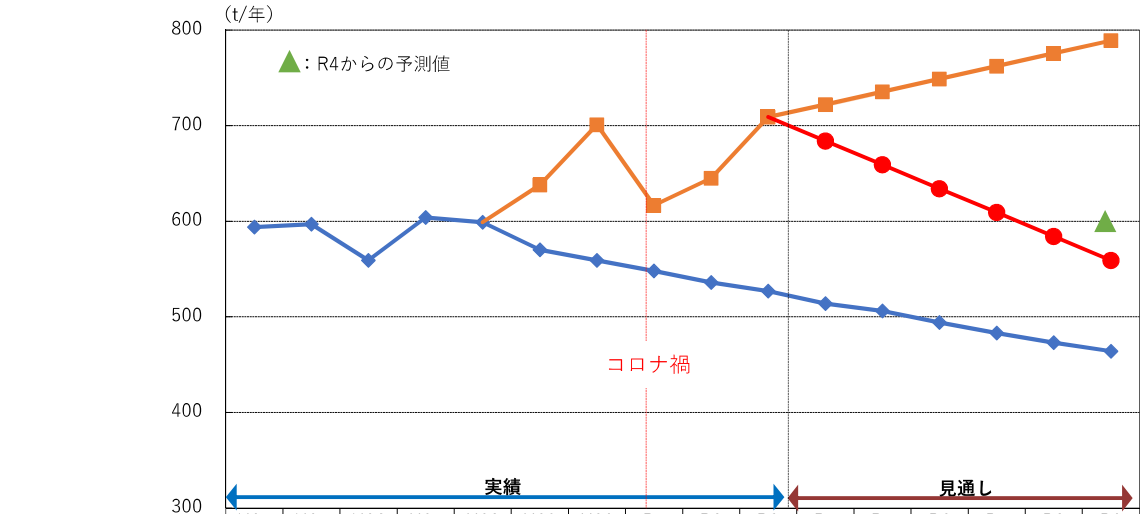
以上のことから、燃えるごみの令和 9 年度目標値は過去 10 年間実績のうちの最小値となる 559.0t/年（H26）と同値に設定することとします。

なお、目標値（559.0t/年）を達成することで推計値（789.1t/年）から 29.2%の削減となります。

◆図表 3-10　燃えるごみの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	(R4-R3)	R4実績値（4～1月）	R9目標値		判定	備考
						R3からの増減率		
単位	t/年	t/年	増減(%)	t/年	t/年	%		
実績	709.2	607.7	-2.4	593.4	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	464.0	-34.6	－	－
推計値		－	－	－	789.1	+11.3	×	R3実績値の方が小さい
R4からの予測値		＝-2.4%×6年			607.1	-14.4	×	R9目標値はR4からの予測値より高く設定する
R3からの削減率		－	－	－	640	-10	×	R4からの予測値の方が小さい
過去5年最小		－	－	－	616.7	-13.0	×	R4からの予測値の方が小さい
過去10年最小		－	－	－	559.0	-21.2	○	
採用値		－	－	－	**559.0**	**-21.2**	－	

◆図表 3-11　燃えるごみの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	594.0	597.0	559.0	604.0	599.0	570.0	559.0	548.0	536.0	527.0	514.0	506.0	494.0	483.0	473.0	464.0
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	638.0	701.2	616.7	645.1	709.2	722.3	735.7	749.0	762.4	775.7	789.1
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	638.0	701.2	616.7	645.1	709.2	684.2	659.2	634.2	609.2	584.2	559.0

イ　燃えないごみ・空き缶・その他

目標採用値：78.9t/年　⇐　実績値(R3)：83.1 t/年
（-5%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 7.3%増加しており、燃えないごみ・空き缶・その他（直接搬入ごみ）搬入量は、今後推計値以上に増加して推移するものとし、仮に 7.3%ずつ増加（R3 実績 83.1t/年×7.3%＝6.07t/年×6（R4～9 の 6 年間）≒36.4t/年）したとすると令和 9 年度では 119.5t/年となります。

燃えないごみ・空き缶・その他（直接搬入ごみ）は平成 30～令和元年度に大きく増加しており、コロナ禍による影響との相関性は小さいと考えられます。

また、燃えないごみ・空き缶・その他の目標値の設定については図表 3-12～13 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 78.9t/年（5%削減）で、これは推計値及び令和 4 年度からの予測値よりも高い目標設定となっています。

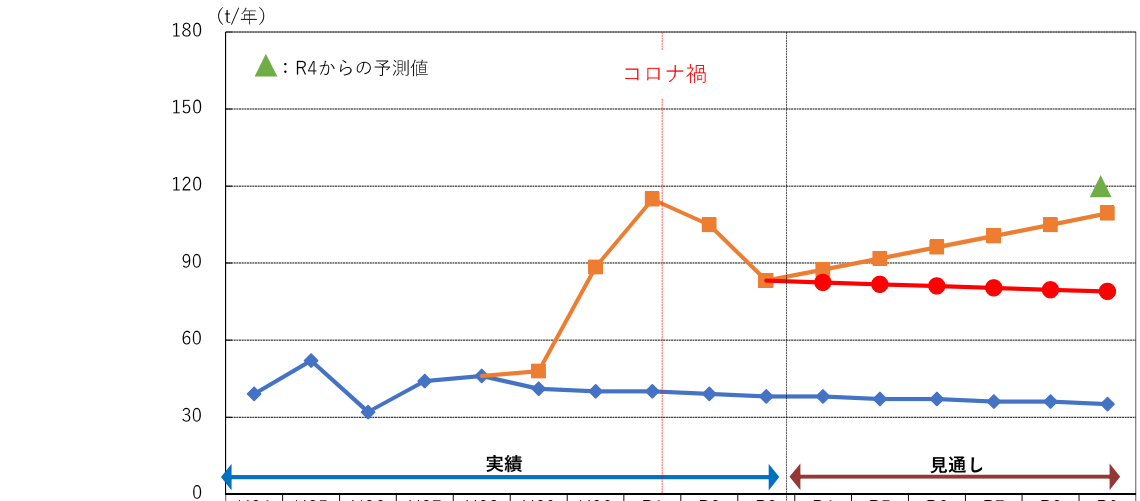
以上のことから、燃えないごみ・空き缶・その他の令和 9 年度目標値は令和 3 年度実績値から 5%減少させた 78.9t/年に設定することとします。

なお、目標値（78.9t/年）を達成することで推計値（109.3 t/年）から 27.8%の削減となります。

◆図表 3-12　燃えないごみ・空き缶・その他の減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4実績値（4～1月）	R9目標値	R3からの増減率	判定	備考
単位	t/年	t/年	増減(%)	t/年	t/年	%		
実績	83.1	70.8	7.3	76.0	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	35.0	-57.9	－	－
推計値		－	－	－	109.3	+31.5	×	R3実績値の方が小さい
R4からの予測値		＝7.3%×6年			119.5	+43.8	×	R3実績値の方が小さい
R3からの削減目標		－	－	－	78.9	-5	○	
過去5年最小		－	－	－	47.9	-42.4	－	推計値及びR4からの予測値が増加しており、過度な削減は困難
過去10年最小		－	－	－	32.0	-61.5	－	推計値及びR4からの予測値が増加しており、過度な削減は困難
採用値		－	－	－	**78.9**	**-5**	－	

◆図表 3-13　燃えないごみ・空き缶・その他の減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	39.0	52.0	32.0	44.0	46.0	41.0	40.0	40.0	39.0	38.0	38.0	37.0	37.0	36.0	36.0	35.0
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	47.9	88.5	114.8	104.8	83.1	87.4	91.8	96.1	100.5	104.9	109.3
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	47.9	88.5	114.8	104.8	83.1	82.4	81.7	81.0	80.3	79.6	78.9

ウ　粗大ごみ

目標採用値：33.1t/年　⇐　実績値(R3)：43.6t/年
（-24.1%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 2.7%減少しており、粗大ごみ（直接搬入ごみ）搬入量は、推計と異なり今後は減少傾向にて推移するものとし、仮に 2.7%ずつ減少（R3 実績 43.6t/年×2.7%＝1.18t/年×6（R4～9 の 6 年間）＝7.08≒7.1 t/年）したとすると令和 9 年度では 36.5t/年となります。

これは、コロナ禍前から増加していた家具などの廃棄がコロナ禍により促進され、時の経過とともに落ち着いてきていると考えられます。

また、粗大ごみの目標値の設定については図表 3-14～15 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 39.2t/年（10%削減）で、令和 4 年度からの予測値の方が小さく、令和 9 年度の目標値はこれよりも高い設定が可能であると考えられます。

次に、過去実績では過去 5 年間実績の最小値は 33.1t/年（H29）で、令和 4 年度からの予測値よりも小さいため、令和 9 年度の目標値は過去 5 年間実績の最小値を採用することとします。

以上のことから、粗大ごみの令和 9 年度目標値は過去 5 年間実績のうち最小値である 33.1t/年（H29）と同値に設定することとします。

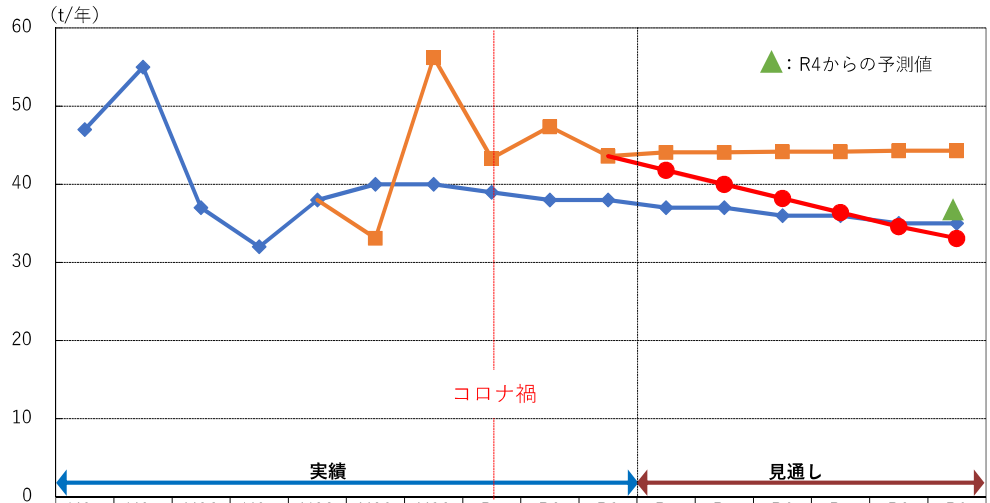
なお、目標値（33.1t/年）を達成することで推計値（44.3t/年）から 25.3%の削減となります。

※過去 10 年間最小値を採用しなかったのは、過去 5 年間の増減傾向、推計値を考慮し、より直近の過去実績を重視したため

◆図表 3-14　粗大ごみの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4実績値（4～1月）	R9目標値	R3からの増減率	判定	備考
単位	t/年	t/年	増減(%)	t/年	t/年	%		
実績	43.6	37.5	-2.7	36.5	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	35.0	-19.7	－	－
推計値		－	－	－	44.3	+1.6	×	R3実績値の方が小さい
R4からの予測値		＝-2.7％×6年			36.5	-16.3	×	R9目標値はR4からの予測値より高く設定する
R3からの削減目標		－	－	－	39.2	-10	×	R4からの予測値の方が小さい
過去5年最小		－	－	－	33.1	-24.1	○	
過去10年最小		－	－	－	32.0	-26.6	×	推計値が増加傾向にあり、R4予測値から10%以上削減の必要があることから過度な削減は困難
採用値		－	－	－	**33.1**	**-24.1**	－	

◆図表 3-15　粗大ごみの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	47.0	55.0	37.0	32.0	38.0	40.0	40.0	39.0	38.0	38.0	37.0	37.0	36.0	36.0	35.0	35
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	33.1	56.2	43.3	47.4	43.6	44.1	44.1	44.2	44.2	44.3	44.3
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	33.1	56.2	43.3	47.4	43.6	41.8	40.0	38.2	36.4	34.6	33.1

エ　ペットボトル・発泡スチロール

目標採用値：4.4t/年　⇐　実績値(R3)：5.2 t/年
（-15%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 2.2%減少しており、ペットボトル・発泡スチロール（直接搬入ごみ）搬入量は、推計と異なり今後は減少傾向にて推移するものとし、仮に 2.2%ずつ減少（R3 実績 5.2 t/年×2.2%＝0.11 t/年×6（R4～9 の 6 年間）＝0.66≒0.7 g/人･日）したとすると令和 9 年度では 4.5 t/年となります。

ペットボトル・発泡スチロールは平成 29～令和元年度に大きく増加しており、コロナ禍による影響との相関性は小さいと考えられます。

また、ペットボトル・発泡スチロールの目標値の設定については図表 3-16～17 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 4.7t/年（10%削減）で、令和 4 年度からの予測値（4.5t/年）の方が小さく、令和 9 年度の目標値はこれよりも高い設定が可能であると考えられます。

次に、過去実績では過去 5 年間及び 10 年間実績の最小値は 1.0t/年（H27 及び H28）で、過去 5 年間の増減傾向、推計値及び令和 4 年度からの予測値を考慮すると非現実的であると考えられます。

そのため、令和 4 年度からの予測値（R3 実績値からの増減率：13.5%）を上回る目標値として令和 3 年度実績値から 15%削減した数値とします。

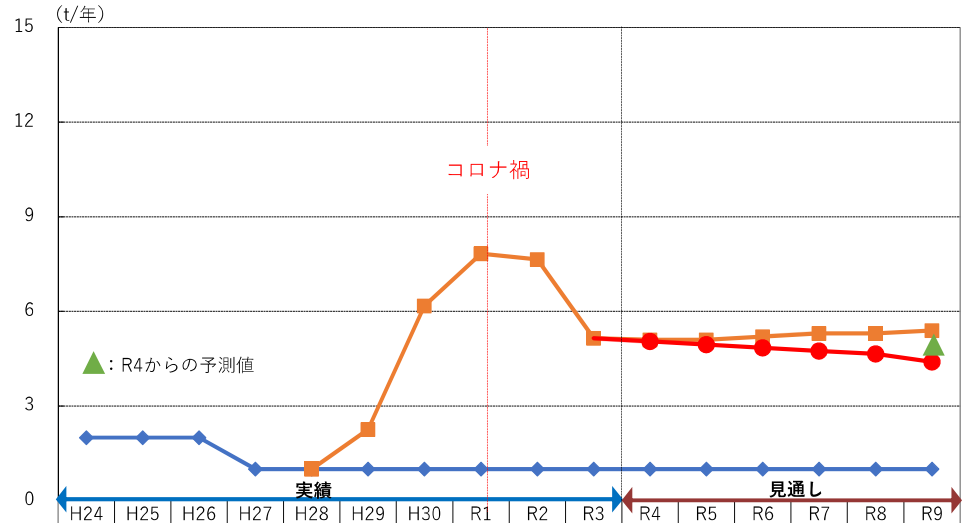
以上のことから、ペットボトル・発泡スチロールの令和 9 年度目標値は令和 3 年度実績値から 15%減少させた 4.4t/年に設定することとします。

なお、目標値（4.4t/年）を達成することで推計値（5.4t/年）から 18.5%の削減となります。

◆図表 3-16　ペットボトル・発泡スチロールの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4実績値（4～1月）	R9目標値		判定	備考
						R3からの増減率		
単位	t/年	t/年	増減(%)	t/年	t/年	%		
実績	5.2	4.6	-2.2	4.5	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	1.0	-80.8	－	－
推計値		－	－	－	5.4	+3.8	×	R3実績値の方が小さい
R4からの予測値		＝-2.2%×6年			4.5	-13.5	×	R9目標値はR4からの予測値よりも高く設定する
R3からの削減目標		－	－	－	4.7	-10	×	R4からの予測値の方が小さい
過去5年最小		－	－	－	2.3	-55.8	×	推計値が増加しており、過度な削減は困難
過去10年最小		－	－	－	1.0	-80.8	×	推計値が増加しており、過度な削減は困難
R3からの削減率		－	－	－	4.4	-15	○	
採用値		－	－	－	**4.4**	**-15**	－	

◆図表 3-17　ペットボトル・発泡スチロールの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	2.3	6.2	7.8	7.7	5.2	5.1	5.1	5.2	5.3	5.3	5.4
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	2.3	6.2	7.8	7.7	5.2	5.1	5.0	4.9	4.8	4.7	4.4

オ　ダンボール

目標採用値：32.2t/年　⇐　実績値(R3)：34.9t/年
（-7.7%）

令和 4 年度（4～1 月）実績値は、令和 3 年度の同期間と比較すると 19.4%増加しており、ダンボール（直接搬入ごみ）搬入量は、推計と異なり増加傾向にて推移するものとし、仮に 19.6%ずつ増加（R3 実績 34.9t/年×19.4%＝6.77t/年×6（R4～9 の 6 年間）≒40.6t/年）したとすると令和 9 年度では 75.5t/年となります。

これは、コロナ禍による自宅で過ごす時間の増加や不要不急の外出によって、購買行動が現地の店舗からインターネット等を通じたものにシフトし、宅配物量が増加したことが要因であると考えられ、このような便利な生活様式が大きく変化することは一般的には難しいと考えられますが、推計値の将来推移を考慮すると、令和 4 年度実績値（4～1 月）は一時的なものであると考えられます。

また、ダンボールの目標値の設定については図表 3-18～19 に示すように、令和 3 年度からの削減目標は 33.2t/年（5%削減）で、推計値の方が小さくなるため、令和 9 年度の目標値はこれよりも高い設定が可能であると考えられます。

次に、過去実績では過去 5 年間及び 10 年間実績の最小値は 10.0t/年（H27 及び H28）で、過去 5 年間の増減傾向、推計値及び令和 4 年度からの予測値を考慮すると非現実的であると考えられます。

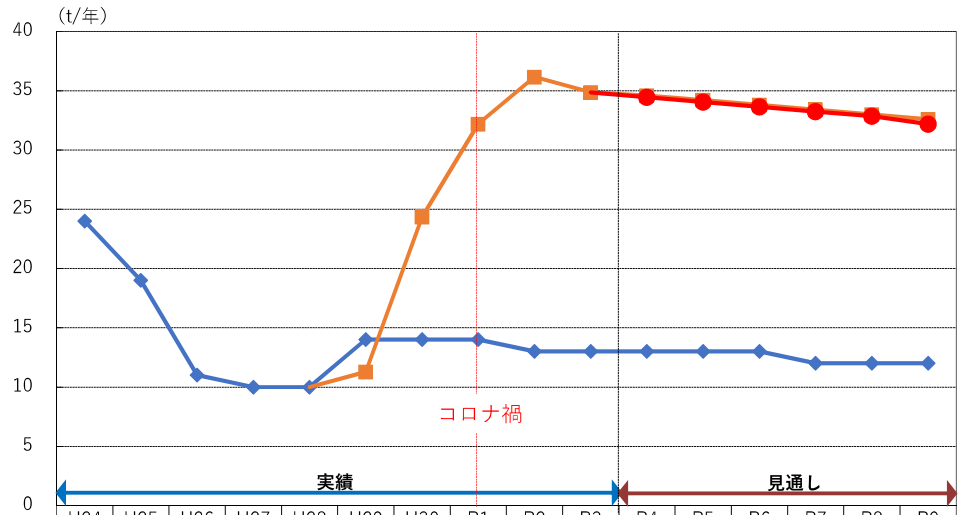
そのため、ダンボールの令和 9 年度目標値は令和 3 年度実績値から遡り、令和 3 年実績値に次いで大きい値となる 32.2t/年（R1）を目標値に設定することとします。

なお、目標値（32.2t/年）を達成することで推計値（32.6t/年）から 1.2%の削減となります。

◆図表 3-18　ダンボールの減量化目標設定

項目	R3実績値	R3実績値（4～1月）	（R4-R3）	R4予測値（4～1月）	R9目標値	R3からの増減率	判定	備考
単位	t/年	t/年	増減(%)	t/年	t/年	%		
実績	34.9	29.5	19.4	35.1	－	－	－	－
現行計画		－	－	－	12.0	-65.6	－	－
推計値		－	－	－	32.6	-6.6	×	R9目標値は推計値よりも高く設定する
R4からの予測値		＝+19.4％×6年			75.5	+116.3	×	増加しているため不採用
R3からの削減目標		－	－	－	33.2	-5	×	推計値の方が小さい
過去5年最小		－	－	－	11.3	-67.6	×	R4からの予測値が増加しており、過度な削減は困難
過去10年最小		－	－	－	10.0	-71.3	×	R4からの予測値が増加しており、過度な削減は困難
R3からの削減率		－	－	－	31.4	-10	×	推計値より高い目標値となったが、過去5年間の増減傾向を考慮すると10%の削減は達成困難
実績値に基づく設定（R1実績値）		－	－	－	32.2	-7.7	○	R3から遡り、R3に次ぐ大きい値 推計値より高い目標かつ減少率10%以下
採用値		－	－	－	**32.2**	**-7.7**	－	

◆図表 3-19　ダンボールの減量化目標



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
現計画（目標値）	24.0	19.0	11.0	10.0	10.0	14.0	14.0	14.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	12.0	12.0	12.0
本計画（推計値）	—	—	—	—	—	11.3	24.4	32.2	36.2	34.9	34.6	34.2	33.8	33.4	33.0	32.6
本計画（目標値）	—	—	—	—	—	11.3	24.4	32.2	36.2	34.9	34.5	34.1	33.7	33.3	32.9	32.2